

整体、カイロプラクティック、気功、リフレクソロジーなど、多くの人たちから信頼されている民間療法でも、鍼灸師や柔道整復師などの国家資格者と比較されると、いささか立場が弱い。そういう人たちの技術を証明するため、「上級メディカル療法師」として位置づけて認定しているのが、NPO法人メディカル療法師認定協会（鴻耀院理事長）だ。

認定種目は、上級メディカル療法師、

上級整体療法師、整体療法師、カイロプラクティック師、スポーツトレーナー、

民間資格の有無を問わず、原則として1

年以上業務に携わり同協会の審査の結果適当と認められる人。認定料は各種療法

国家資格ない人の技術を証明する 内閣府認証NPO法人メディカル療法師認定協会

温圧整体師、エステティシ

民間資格の有無を問わず、原則として1

年以上業務に携わり同協会の審査の結果適當と認められる人。認定料は各種療法

セミナーなどで技術を高めた人を含め、「多くの、いわば肩書きのない療術師の人々に、認定証を交付することで支援できないだろうかと立ち上げた」（鴻理事長）というのが、メディカル療法師認定協会だ。

「技術の裏付けとして認定証を掲示しておこなうことで、療術師の技術の保障と社会的信頼になり、安心して施療に取り組める」とも話す。

鴻理事長は、昭和18（1943）年台湾台中州生まれ。福岡大学卒業後、高等学校教諭を経て、中国上海中医学院、北京医科大学で推拿学、按摩学、解剖学、氣功学を学んだ。日中両国医学交流学会会長なども務めている。

坂口・新聞両氏も卒業式に出席

鴻理事長

新聞氏

こうした協会の活動を支えているのが、最高顧問のアントニオ猪木氏や名誉

準を満たしていない人には、セミナーや授業が用意されている。

技術の裏付けとしての認定証

メディカル療法師認定協会の設立は平成15（2003）年と、まだ歴史は浅いが、これまでおよそ600人に認定証を発行してきた。

患者さんから信頼される技術があれば認定証など必要ないという人もいるが、

セミナーなどで技術を高めた人を含め、「多くの、いわば肩書きのない療術師の人々に、認定証を交付することで支援でき

ないだろうかと立ち上げた」（鴻理事長）というのが、メディカル療法師認定協会だ。

「技術の裏付けとして認定証を掲示しておこなうことで、療術師の技術の保障と社会的信頼になり、安心して施療に取り組める」とも話す。

鴻理事長は、昭和18（1943）年台湾台中州生まれ。福岡大学卒業後、高等学校教諭を経て、中国上海中医学院、北京医科大学で推拿学、按摩学、解剖学、氣功学を学んだ。日中両国医学交流学会会長なども務めている。

新聞氏も口をそろえて言う。

「健康保険制度が崩壊してしまったといわれる時代。これにはやはり予防で健康人をつくるというのもそもそもわれわれが提唱したもの。猪木さんや坂口さんは身をもって体験している。治療をするのは、医師の領域だが、病気にかかるのを一人でも少なくしようというのが目標。そういう思いを込めながら、『燃える闘魂』と『世界の荒鷦』がお手伝いさせていただいている」と話す。

恒例の卒業式には、坂口氏と新聞氏は必ず出席しているという。

同協会は、福岡に本部事務所を置き、実際のセミナーや授業に関しては福岡の教室で行っているが、現在、講師制度をとつて、協会のセミナーや授業が受けられるのは、秋田、山形、千葉、福岡、栃木、広島、山口、佐賀、兵庫、京都など

10府県ほどで、今後さらに受講地を増やして、全国で認定のためのコースが受けられるよう整備を進めているという。